

らいん

地域の未来へつなぐ活動情報紙

トピック

学校・地域で活躍する おやじの会



市内各小中学校を拠点に活動するおやじの会。おやじたちが、子どもとの会話を増やし、父親として横のつながりをもつことで、子育てに積極的に参加することを目的に発足しました。

今では、在校生の保護者だけでなく、卒業生の保護者や地域住民も応援隊として参加し、様々なイベントを実施したり、学校行事、地域行事をサポートしたりしています。

「できるひとが、できる時に、できる範囲で」をモットーに、学校、地域で子どもたちの笑顔のために活動しています。



春日原小 稲刈り



春日北小 水鉄砲大会



天神山小 夏フェス



春日西小 お化け屋敷



春日小 キャリア教育



白水小 ダンボールハウス

我々「おやじの会」は、子どもたちとのコミュニケーションを大切にしています。地域や学校行事への参画・サポート、「おやじの会」独自企画のイベント等を通じ、真剣に！！何より楽しく活動しながら子どもたちの成長を見守っています。

喫緊の課題は、我々子育て世代の、学校行事・地域（自治会）活動への積極的参画が少ないことです。みんなで連携し、より多くの機会を作って、一緒に子どもたちの成長を見守り、応援していきましょう。

「春日おやじネットワーク」一同

春日おやじネットワーク代表
天友会(天神山小) 衛藤 大地さん



地域の輪(和)、人と人との輪(和)をつなぐという意味を込めて名づけた「地域活動指導員だより“らいん”」。市内各地区の活動を地域活動指導員が取材し、発信します。

市ウェブサイト“らいん”掲載ページ →



エックス X (旧ツイッター)にも
掲載中 →



春日中 校区

須玖小学校 すぐっこ祭り



12月16日(土)須玖小学校PTA主催の「すぐっこ祭り2023」が開催されました。PTAと自治会が協力した物品販売や体験ブースの他、キッチンカーや移動式遊園地が集結。中でも今回のイベントの1番の目玉は、須玖小学校出身の画家、北村 直登(きたむら なおと)さんのライブペインティング。動物の絵を次々と描き上げていく北村さんの様子に、子どもたちは釘付けになっていました。

北村さんは「1番大事なことは自分が描いた絵を好きになること。たくさん描くことで必ず上手くなりますよ。自分がこうなりたいと思いつけていけば、夢は必ず叶います」と母校の後輩たちにエールを送りました。



▲即興で絵を描く北村さん

春日南中 校区

春日南小学校 わくわくカーニバル



11月11日(土)春日南小学校で開催されたPTA主催のわくわくカーニバルでは、「本の広場」が大盛況でした。学校や自治会の協力で集められた本はなんと1,500冊以上!親子でじっくり本を選ぶ姿が印象的でした。



▲中学生ボランティアたち

また、各コーナーでは、春日南小学校出身の中学生が、綿菓子作りや案内係など、ボランティアとして大活躍!頼もしいお兄さんお姉さんとふれ合い、子どもたちも嬉しそうでした。



▲親子で賑わう本の広場

春日野中 校区

春日原小学校 ばるっこデー



10月21日(土)、春日原小学校PTA主催・ばるっこデーが開催されました。コロナ禍で飲食を伴うまつりの開催が難しくなり、企画内容を変更して今年で3回目。この日は、多くのボランティアの皆さんのご協力のもと、子どもたちの笑顔がはじける一日となりました。クイズコーナーでは、難しい問題に挑戦したり、高学年が低学年にクイズの解き方を教えたりする姿などが見られました。



▲オープニングダンスのほか職員バンドの演奏や児童の歌などでにぎわいました。



▲とけるかな?? ゲーム会場は3カ所。たてわり班で行動しました。



▲体育館では3種のワークショップを開催。原田PTA会長(左)と金堂前PTA会長(右)

自治会・子ども会

春日東中 校区

宝町地区自治会 防災キャンプ



もしも災害が起きて、公民館が避難所になったら…。
11月4日（土）、宝町地区公民館で一泊二日の防災キャンプが開催されました。レクリエーションや防災クイズで参加者同士の緊張がほぐれたところで、宿泊場所を設営。公民館横の公園と館内に分かれて、テントやダンボール、防災用の畳を使って家族のプライバシーが守れるスペースを確保しました。

防災クッキングでは、ポリ袋を使ったカレーの作り方を学び、災害時の食事を家族で体験しました。

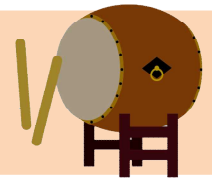
その他にも、飲料水のろ過や火起こし体験など、盛りだくさんの内容で、地域の防災について考える貴重な機会になっていました。



▲宿泊場所を設営している様子
(上:屋外、下:屋内)

春日西中 校区

上白水地区自治会 秋まつり



▲上白水アンビシャス太鼓

11月4日（土）、爽やかな晴天の下、上白水ふれあい秋まつりが開催されました。正面のステージではマジックショーや春日西小と白水小の3年生による花笠音頭などが披露されました。中でも祭りを盛り上げていたのが、「上白水アンビシャス太鼓」の子どもたちです。

ピッタリ息の合った素晴らしい演奏に、大勢の観客から盛大な拍手が送られていました。日頃の練習の成果を発揮することができ、充実した表情の子どもたちでした。



春日北中 校区

サン・ビオ子ども会クリスマス会



12月10日（日）、寒さが和らいだこの日は、サン・ビオ子ども会によるクリスマス会が日の出小学校体育館で開催されました。子どもたちは受付で渡されたカラーバンドを手首に巻き、赤・青・黄・緑の4チームに分かれて、ひっくり返し競争やキャタピラ競争など計5種類のゲームや抽選会などを楽しみました。

参加した子どもたちからは、「面白い!」「まっすぐ進まなくてむずかしいけど、楽しい!」などの声が聞かれました。歓声が飛び交うイベントを支えたのは、役員と保護者ボランティアの計19名。また、子ども役員もゲームに使用する紙皿に色紙を貼ったり、プログラムを作ったりと活躍していました。



▲もみの木運びリレーの様子。各チームの声援が会場に響きます。



▲サンタ役の日の出小伊藤校長とサン・ビオ地区自治会のみなさん

地域コーディネーターの活動を紹介します！

春日西小学校地域コーディネーター

糸数 亜紀恵さん、北川 悠子さんにお話を伺いました

現在、春日西小学校の地域コーディネーターは2人体制で、私たちは今年で4年目になります。西小は、三者運動カリキュラムに基づき、子ども・保護者・地域が共に学び合う場がたくさんあります。その中で、地域の方(西っぴい先生)と学校(先生)とをつないだり、連絡調整を行ったりしています。

また、校外活動の引率や授業のお手伝いなど、学校の支援をしています。その他、コミュニティ・スクールの意義や良さははっちールームだよりやホームページなどで定期的に情報発信しています。

新たな取り組みとしては、コロナ禍で保護者同士の交流や、学校との関わりが減少していたのをきっかけに「はっちールーム座談会」を始めました。今年度は、回数を多くしたり、テーマを設けて保護者の方が悩みや思いを相談したり、学校や地域のことをより知っていただける会にするよう工夫しています。

今後も地域・保護者がもっと学校を身近に感じ、三者が協力しながら子どもたちの成長を手助けできるような橋渡しをしていきたいと思えます。



▲しめ縄づくり



▲野菜づくり



▲プリントなどの丸つけ



▲はっちールーム座談会

キラリ春日の人



春日南小学校区アンビシャス広場
協働活動サポーター
(ちくし台公民館)

こが きょうこ
古賀 恭子さん

ちくし台地区にお住まいの古賀恭子さんは、平成23年から4年間のちくし台地区自治会長在任中に、アンビシャス広場活動の一つとして寺子屋を立ち上げました。

自治会長を退いてからも10年以上、子どもたちの居場所として、ちくし台公民館で寺子屋を運営しています。

「寺子屋では、自然と上の学年が下の学年に勉強を教えるようになり、異学年交流の機会になっています。寺子屋に低学年から来ていて、今では高校生になった子が、元気にあいさつしてくれると嬉しいですよ」と古賀さん。長く続けている間には大変なこともあったのでは・・・と尋ねると、「苦に思ったことは一度もないよ。だって、寺子屋も含めて、公民館での活動は私の生活の一部だから」と笑顔で答えてくれました。

春日市子育て講演会

家族で考える スマホ時代の情報リテラシー

11月21日、ふれあい文化センターサンホールで、「家族で考える スマホ時代の情報リテラシー」をテーマに子育て講演会を開催しました。

講師は、株式会社「伝えるを考える」置鮎 正則(おきあゆ まさのり)さん。今やスマホは必携の情報端末。子どもたちにとってインターネット環境は当たり前の存在です。SNSは情報発信が簡単で、人とのつながりや知識を広げるツールである反面、使い方次第でトラブルを招きます。SNSなどにおけるトラブルを回避するにはどうしたら良いかについて、「言葉の選び方」や「危険予測と対策」などについてお話しいただきました。

置鮎さんは、「大人がスマホを使う姿がお手本。親が子どもにルールを押しつけるのではなく、親子で一緒に考えることが大切です」と話しました。

参加した保護者からは、「ネットの可能性をポジティブに教えていただき、学びになった」「まずは自分のスマホの使い方を見直したい」という感想が聞かれました。



▲講師の置鮎さん